

市長あいさつ

皆さんおはようございます。北九州市長の武内和久でございます。

素晴らしい歌声で始まりました「ミライ・トーク in 戸畑区」。今日はお来場の皆様、そしてパネリストの皆様、お忙しい中お集まりをいただきありがとうございます。

このミライ・トークは、これからの北九州市の未来像を作っていく、新たなビジョンを作っていくために、市民の皆さんみんなで議論をしながら「まちの将来像」そして「まちの誇り」そして「まちの進むべき方向性」をみんなでディスカッションしようというものでございます。

新しいビジョンの策定に向かって、老若男女いろんな方が一緒になって、皆さんの思いやアイデアをぶつかり合わせる、そういう場にしていききたいと思っております。多くの方が、このミライ・トークを通じて、まちづくりにますます関心を持って加わっていただくことを楽しみにしております。

ミライ・トークの第1回目は、この戸畑区で行わせていただくことになりました。この戸畑区、素晴らしい会場ですけれども「心豊かで快適な生活が楽しめる文教のまち」でございます。臨海部には広大な製鉄所、市街地には九州工業大学を抱える産業都市としての性格も持っております。そして5つの高校も立地しており、今日は5つの高校全て、戸畑高校、ひびき高校、戸畑工業高校、北九州市立高校、明治学園高校の皆さんにお越しいただいております。さらに、心癒される広大な緑が広がる夜宮公園、世界に発信できるユネスコ無形文化遺産「戸畑祇園大山笠」、旧松本家住宅、旧安川邸、美術館などがあり、多くの自然と歴史・文化が薫る、上質なまちの雰囲気味わえるのが戸畑区です。

本日お集まりの皆さんも、本当にいろんな角度から戸畑区をご覧になっていると思います。戸畑区の強み、そして課題もあるかもしれませんが、ただ多くのポテンシャルを持っているこの戸畑区を、ますますワクワクできるまちに、そして未来に向かって発展して、心が安らぐまちへとしていくために、皆さんの思いをぶつけていただきたいと思います。

また、パネリストの皆様も豊かなご知見をもとに、様々なご議論をいただければと思っております。今日は限られた時間ですが、戸畑区の未来に向かって一緒に夢を描き、そしてアイデアを交わして参りましょう。本日は2時間よろしく願いいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございました。続きまして、戸畑区の未来を語り合う前に、今の戸畑区の魅力を皆さまに知ってもらうためのプレゼンテーションを行います。戸畑区若手職員の皆様よろしくお願い致します。

～ 中略（戸畑区プレゼンテーション）～

進行（重岡）：

パネルディスカッションの前に、私の隣にいらっしゃいます戸畑区の武田区長から、戸畑区の将来像に関わるることについて、皆様にお伝えいただきたいことがあります。

武田区長：

皆様こんにちは、戸畑区長の武田信一と申します。

今日はたくさんの方にお集まりいただき、ありがとうございます。戸畑の魅力・自慢について

若手職員からご紹介をさせていただきました。そこでパネルディスカッションに対して、私から3点ほど問題提起をさせていただきます。私の日頃悩みと聞いていただければと思います。

1つ目、戸畑のまちは様々なインフラが整って確かに住みやすくなっていると思います。ただ、その中で教養豊かに、そして楽しく、皆さんが生活されているか、暮らされているか、これが1点目私の悩みでございます。次に、大学それから高校も5つあるというご紹介をさせていただきました。ただ、これを観光地に例えますと、九州工業大学の学生が、戸畑を本当に学生のまちと思っているか、何かこう素泊まりしているような感じはないか。あるいは高校の方は電車・バス・自転車で通学していると思っておりますが、戸畑を素通りして家まで帰っていませんか、楽しんでますか、というのが2点目。それから3点目この九州工業大学を含めて、およそ100年前、石炭産業を起こした安川家がたくさん色々なものを残していただいております。九工大、明治学園、実は戸畑工業高校も安川家が作った高校になりますし、西日本工業倶楽部、安川邸いろいろなものがありますが、この歴史・文化遺産群を、次の100年に向けてどのようにまちに溶け込ませていったら良いのか、どのような未来を描いていったら良いのかについて、皆さんのお知恵をお借りしたいと思っております。よろしく願いいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございます。皆さん色々頭の中に自分なりの未来の戸畑像が描かれていると思いますが、これからは、パネリストの皆さんの思う未来の戸畑像のお話をしていただきたいと思っております。

まずは、戸畑区自治総連合会会長であり、戸畑菖蒲まつり実行委員でもいらっしゃいます、三上久恵様お願いします。

パネルディスカッション

三上氏：

ただいまご紹介をいただきました、戸畑区自治総連合会会長の三上でございます。どうぞよろしく願いいたします。戸畑区はよく皆さんから「戸畑区に住みたいけれど手が出らんとよね」とよく言われます。そして空き地ができる、すぐ次に新しい家が建つというほど人気の区でございます。

私が住んでいるのは戸畑の天籟寺地区でございます。天籟寺地区は美しい自然に恵まれて、素晴らしい教育施設が整っているところでございます。保育園・幼稚園はもちろんのこと「学校に上がると預けるところがないとよね」と、働いているお母さんは心配されると思っておりますけれども、1年生から6年生までを預かる児童館がございます。その児童館は子どもが帰ってくるまでの間、午前中は赤ちゃん講座などを開き、子育て支援に寄与しております。それから、北九州一円はもとより、いろんなところから通って来られる明治学園、そしてその隣にある九州工業大学、これは本当に自慢すべきところでございます。10年先を見据えた教育環境が整っているところでございます。

一方、自然環境の方では、素晴らしい環境の夜宮公園一帯を中心にいたしまして、長い冬を待ちかねたように紅白の梅が咲くと、自治会では梅まつりを、地域を挙げて行います。その後、夜宮公園を桜が一色に染め、その後に、ナンジャモンジャの花が夜目にも白く浮き上がる素晴らしいところです。そして戸畑の三大イベントの一つとなりました、菖蒲まつり、それから秋には皇帝ダリアが空を突くように伸びております。この花が咲くたびに、北九州市内の介護施設の

バスが見学を訪れております。

そして、その他にも天籟寺は、まもなく始まる祇園山笠をしております。青年大山笠が一基それから中学生を対象にした古典山笠が1機、それから小学生対象の子ども山笠二基を出しております。その他にも、毎月の川掃除や夜間パトロールなどをやっており、コロナ禍の前には地区の皆さんから「天籟寺はよく祭りや行事をやるよね」と半ば皮肉を込めて言われたこともございます。元気な高齢者が多いからだと思います。

私どもは一つの行事が終わると、すぐ、次の実行委員会を開きます。それはなぜかと言うと、一人暮らしの年長者の皆さんが祭りや行事をやると、必ず参加してくださるからです。「今日、朝から一言もしゃべってないよ」という年長者の方が、誘われて出て行ったら、知った人がたくさんいて「また、この次会おうねって約束した」と嬉しそうに話されるのを見ると、やって良かったと思います。

自治会では、防犯灯を蛍光灯からLEDに地域全部を変えました。目の悪くなった高齢の方々が夜出かけるのに、段差に躓かないようにするためです。また、住宅火災警報器も北九州の中では戸畑の設置率が一番だそうですが、天籟寺はすでに10年前に設置しております。このように、地域の方々が天籟寺に住んで良かった、安心して暮らせるまち、誰も取り残さないまちを目指して頑張っております。

ところが、コロナが発生して、行事や祭りが一切できなくなりました。訪問することもできず、皆さん方の噂の中で「あの方の行動がどうもおかしいよ」とか「認知症になったみたいよ」とか「出歩かないから足が悪くなって、歩けなくなったそうよ」とか聞かされた時に、本当にどうしたらいいのか、何かしてやれないのかと、悶々としておりました。

私事で恐縮でございますが、膝関節症で7月7日まで入院しておりました。リハビリの先生が私を車椅子に乗せて、エレベーターに乗り込もうとした時に、すれ違った人に「何々さん！」って呼んだら、その方が「あ、先生！」って振り返られて、先生が「どうしたの？」って言ったら「私またね、家で転んだんです」って、見たら、手には包帯が痛々しく巻かれていて、片手で顔を見せようとされて、鼻はもう紫色、口も腫れ上がっていて、先生が「見せるもんじゃない！」って遮られたんです。私は何でこんな厳しく言うのかなと思ったのですが、その方は「先生にまたお世話になるんだから、じゃあね！」ってあっけらかんとした様子で出られたんです。私は、その姿を見て「すごいですね、強いですね、私なんかほんと3週間入院しただけで、もうがっかりしてしまっただけ」って言ったら、先生が暗い顔をされて「あの方先月に退院したばかりなんですよ」って言われたんです。「ああいう方がどんどん増えています。ここに来ると上げ膳据え膳でしょ。話したくなったらデイサービスのところに行けば皆さんと話せるし、だから退院してもすぐ戻ってくるんです。」って言われたんです。何か頭をガーンと殴られたようなショックを受けました。

早く何かやらなければと、7月には間もなく祇園祭りが行われます。9月にはエコツアーをやります。コロナ禍の前のように、まちや地域が生き生きと、活気に満ち溢れた新しい天籟寺にしていかなければと、心も新たにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

進行（重岡）：

本当に、コロナ禍になって、誰ともしゃべってないという声は結構ありました。ありがとうございました。では、お隣、ヨシミ工産株式会社代表取締役社長・小金丸数嘉様。北九州青年会議

所でもご活躍され、現在も北九州 JC シニアクラブ事務局長などをお務めです。

小金丸氏：

皆様こんにちは。ここから徒歩5～10分ぐらい。飛幡中学校のすぐ隣に本社があります、ヨシミ工産株式会の代表取締役をしております小金丸数嘉と申します。座って紹介を続けさせていただきます。私がなぜ選ばれたか、ちょっと不安なところがありますが、今、三上会長の熱心なプレゼンテーションを聞いて、心が非常に熱くなったところでございます。

私どもの会社は総合印刷業として64年間、北九州の地で、戸畑の高度経済成長とともに、発展させていただいた会社でございます。現在は、皆様もご承知の通りSDGsが推進され、その中でもペーパーレスというものが非常に進んでおり、少しずつ印刷物もなくなってきていますが、私どもが提供する印刷物に、気持ちを込めて、心を込めてご提供しております。主に教育機関と取引をさせていただいており、戸畑区の全校、高等学校・小中学校・幼稚園から大学まで、取引をさせていただいております。

企業理念は、「豊かな人財」ということで、人に財産の財です。まず、社員を大切にしようということ、働いてくれている社員を大切に、私どもの会社の中には、親子で働いている方もあります。

今、真ん中に座っていらっしゃるの、学生さん、高校生の方が多く、今日も未来を語ろうということ、「ミライ・トーク」ということですが、武内市長が最初におっしゃった中に「老若男女」という言葉がありましたとおり、私は誰一人の取り残さないように、高齢者も大切にしたい会社にしていきたいと考えております。

先ほども重岡ファシリテーターの方からご紹介いただきましたとおり、30代の頃は北九州青年会議所で、毎日汗を流しておりました。北九州青年会議所は紹介するまでもなく、常に影の存在でいいかなと思うのですが、「わっしょい百万夏まつり」の運営など、いろんな活動を行っています。到津の森公園を西鉄からなくそうとした時に、立ち上がったのも北九州青年会議所のメンバー会員の力でございました。

その中で私が一番力を入れたのが、今から12年前の2011年、北九州の市花が「ひまわり」ということがほとんど周知されてなかった時に、これを何とか北九州の花というのを市民の皆様が発信しよう、周知しようということで、「北九州ひまわり1万本プロジェクト」というものを開催しまして、市内の各学校、そして市民センターから個人宅まで、ひまわりの種を4月ぐらいに配布をさせていただいて、8月にその成長したひまわりを、勝山公園に一同に集めようという、非常に無茶な事業を行わせていただいたことがありました。その中で私は戸畑の担当で、各市民センターを回った時に、人が非常に温かい。本当に温かい方が多くて、当時は熱射病と言っていたと思いますが、今は熱中症と言われていますが、喉も乾いて、頭がボーッとしている時に、市民センターの館長さんが、麦茶を出してくださって、そこで気持ち的にリフレッシュできたというか、完全に復活できたということがあって、私が思う戸畑の良さというのは、いろんな文教のまちとか、教育のまちとか言われておりますけども、やはり人が温かいまちだと思っております。

その根本には、「青空が欲しい」と公害を克服した元になった方も、戸畑区の方でございます。今は外に出れば青空が広がっていますが、これを克服したのも一市民の声だったのだなと、利他の精神が非常に結びついている、この素晴らしいまちで、私は会社をさせていただいておまして、非常に幸せな気持ちになっております。

長くなってしまい大変恐縮ですが、プライベートでは PTA 活動を積極的に行っており、今年で 16 年目になります。今日も子どもたちが応援に来てくれておりまして、その後ろにいてあまり目立ちたくないようですが、そういった PTA を通じて、人の温かみを感じたりとか、今日もそこにも後輩が座ったりとか、同級生がお子さんを連れてきたりとかで、応援してくれています。やはり人がいてこのまちが成り立っているなというのを、非常に感じております。ミライ・トークということで、また次の機会ございましたら戸畑区の未来について、少しでもコメントをさせていただきたいと思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございます。「利他のまち」「人が温かい」いいなと思えました。

続きまして、九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 環境デザイン研究室 助教でいらっしゃいます、須藤朋美様、お願いいたします。

須藤氏：

今ご紹介に預かりました九州工業大学の須藤朋美と申します。今日は皆さんお集まりいただきありがとうございます。本当にこの大学、この施設が新しくでき、大学にも新しい風が吹いている中、未来を考えるこのイベントをここで開いていただいて、そして最初に学歌で始まったというのに、本当に胸を打たれまして、今日皆さんと一緒に話せるというのが、本当に大事な時間だと感じました。今日 1 日どうぞよろしくお願いいたします。

私の紹介ですけれども、九州工業大学卒業生で、戸畑に 10 年間通い、博士号を取って、教員としてこちらで働かせていただいております。研究は自然のこととか、人のこととかで、公園やお庭の設計の話とか、北九州市さんの緑のまちづくりのお手伝いなど、そういった研究をしています。この戸畑の中では、中原で地域の公園の環境の調査を、横にいらっしゃる三浦さんと、後ろに来ているうちの大学生、戸畑区役所の皆さんと一緒に、公園をよくする活動を何かできないかというのを、一緒に話しながら進めています。

色々考えていることがあり、今日は後ろにいる学生がいろんな地図を作ってくれました。いろんなスキルを持っている学生がいるので、お願いして地図を作ってもらっていますので、それ見ながら皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

先ほどいろんな写真や動画でご紹介いただいた戸畑ですが、上から見るとこのような感じになっています。上半分は工業地帯なので、暮らしている、通っている方々が使っている場所ってというのは、南半分になると思います。鹿児島本線が通っていて 199 号があって南には 3 号線というところで、非常にコンパクトなまちになっているのではないかなと思います。

あと住みよさの部分でも、真ん中に区役所があって、とてもアクセスしやすい場所、中心地にあると思いますし、GYMLABO（ジムラボ）と呼んでいるこの施設も、九工大の駅からちょうど夜宮公園の真ん中に位置しております。教育施設もたくさんありますと紹介がありましたが、地図を鳥の目で見るとこのような感じに配置されています。設立の父が一緒である、この九工大と今日来ていただいている明治学園は隣接していますし、高校もすごく小さい中にたくさんあって小学校・中学校もあるという形で、本当に教育機関が充実していると思っております。こちらの皆さんから見て右の地図は緑の環境です。衛星写真から取ってきたもので、意外と工業地帯の中も緑が多いなというのは、新しい発見ですが、住宅地の方で見ると、九工大、明治学園から夜宮が一連の緑になっており、これはとっても大事な環境で、このように街中にトントントン

とある緑の環境というのが、やはり「豊かさ」とか「住み良さ」というのにつながっているのではないかと考えています。

私が今、緑の環境の研究をしていて、一つ考えていたら良いなと思うのは、安川の森です。九工大の駅から出て大学を通過して、明治学園の中の緑を通過して夜宮につながっていく、とても素晴らしい建築物もたくさんこの中にあるので、それをもっと市民の人にも楽しんでいただけたらとか、あるいはお客さんが来た時に素晴らしいねと言って見ていただけるような、そういった一体的な整備とか活用の仕組みみたいなものがあるのもっと良いのではないかと。九工大もこういった施設を市民の皆さんにもオープンにしたというのがありますし、今から宇宙やロボットといった、本当に面白いことを大学の中でやっているのですが、なかなか知ってもらえないので、それを本当に体感してもらえようようなキャンパスにしましょう、というのを一生懸命大学の中の人も考えていますので、そういったテクノロジー、本当に面白い大学だと私は思っています。面白い大学生に、面白い先生もいっぱいいるので、それを住んでいる人にも「こんなテクノロジーが体験できる」とか「こういう風にこれから世界はなっていく」というのを、最初に感じてもらえるような、そんなまちになったらいいと思います。

こうやって、今、大学生・高校生からお子さんまで連れて来てくださっていますが、ここでずっと住む人も4年とか6年で出ていく人、学生さんとか3年間通う人とかいると思いますが、戸畑のまちというのが、学生時代の、若い頃のとても大事な風景になると思います。先ほど三上さんもおっしゃっていましたが、山笠が4年ぶりにあるというので、練習の音がキャンパスの中に響き渡ってくるのが、本当に嬉しかったです。やっと戻ってきたなと思いました。それを、コロナですべて聞いていない学生さんも多いので、何か鳴ってきたなという人も多いと思いますが、やはり文化として大学生も、高校生も、通ってくる子たちも、学生時代の原風景というのを、戸畑の中に見つけてほしいなと思っています。

そして最後になりますが、戸畑に学生の頃からずっと居て思うのが、三上さんとか、本当に長い間地域のために頑張られている方がいらっしゃるし、あと、先ほど青空を取り戻す話がありましたが、戸畑が公害を何とかしようと、立ち上がったお母ちゃんたちの拠点だったのです。あとは公園の活動。今日は武内市長が来てくださっていますが、公園を見えないところでちゃんと綺麗にして、みんなに使ってもらおうとしてくれている人がいるなど、地域の力がやっぱり本当に強いし、すごく豊かな土壌があるというのを、最近よく感じているところです。大学の中にも面白い人たちとか環境もありますし、地域の中に、すごく強い情熱とか、気持ちがある方々がたくさんいる。年代もいろんな年代がいるので、それぞれの特徴とか、得意なことを活かしながら、お互いを活用し合って、役割を担っていく。とても難しいですけど、多分そんなことができるまちなのではないかというのを常々感じています。

進行（重岡）：

ありがとうございます。今、須藤先生がおっしゃったようなことは、すでにLiveQの中にもあがってきていて、「戸畑駅周辺に高校生がたまる場所があるといいと思います。今は学校と家の往復になってる気がします。」という声もありました。これは先ほどおっしゃった公園とか一体の活用みたいなことに、つながってくるかなと思いました。

続きまして、「戸畑なかばる あそび環境研究会」代表でいらっしゃいます、三浦奈帆様、お願いいたします。素敵なお着物です。

三浦氏：

ありがとうございます。4年ぶりに、帰ってきた、楽しみにしていた山の復活に、思いを込めて少し浴衣を綺麗目に着てきました。普段主婦をしているので、そんなカチツとした格好をして出ることがないので、ちょっと自分で着られるもので、綺麗なものということで浴衣を着てまいりました。

今、肩書きとして挙げていただいた、「戸畑なかばる あそび環境研究会」代表ということで、ちょっと硬めな感じで出ていて、その下に主な活動が書いてありますが、これの前に言わないといけないなと思っていることがありまして、私が今この活動をしていることに繋がっている、私が戸畑の子どもだった時からのことを簡単に話していきたいと思います。

私は、今はあやめが丘小学校になっている、元昔そこにあった三六小学校を出まして、その後、飛幡中学になってしまった沢見中学校を出まして、それから区内の明治学園に進学しました。その後は名古屋の大学に行ったものですから、そこから戸畑を離れることになります。そのような私を育てた、母の常日頃の口癖が「お金をかけて育ててもらったら、その後自分が返せるものがある時には、どんどん世の中にお返しをしてきなさい」という風に言われてずっと育ててきました。それを心に持って、名古屋の方に飛び出していくわけですが、名古屋で大学、大学では外国語学部英米科というところに通いましたが終わった後、自動車関連の会社の秘書として会社勤めをし、その後、転勤族の主人と出会い、北海道に飛ぶわけですが、そこで国際交流センターというところとご縁があり、函館に来る留学生などのお手伝いをするとともに、その頃は地域のボランティア・NPO・NGOなどがたくさん散在していたんですが、それらをまとめ上げる、地域情報誌を創刊しました。

その後、諸々子どもができてからは子育て支援ボランティアをしたり、子育てサークルで森のお散歩会をやってみたりして、それから、愛知に移るのですが、愛知に移ってからは保育園の補助の仕事をしたり、その合間を縫って日本語学習のボランティアをやり、その合間を縫って母親学的なこと、「アドラー心理学」とか「七つの習慣」とかを、お母さんたちを集めて教える方がいらっしやいまして、そこに行っていました。そこは女性起業家が結構多い環境で、いろんな地域活動もやりながら、自分の仕事もやりながら、というお母さんが多い環境に身を置いておりました。

その後、やっと北九州に戻ってきました。一人っ子ですので、そろそろ親が心配だなということでUターンをしてみまして、野球少年2人と下に姫を抱えた3人兄弟を連れて、ちょうど丸4年経って5年目ぐらいになります。

戸畑にいた頃、自分が戸畑をどう思っていたか。今、たくさん「恵まれた環境ですね」とお話をくださったのですが、それでも、「特に何も無いよね」と、その環境が当たり前だと思っていました。ずっと居ると分からないですね。で、外に出てみると「あれが恵まれていたんだ」「あれが良かったんだ」ということに気づきます。それで戻ってきて、地域の公園をちょっと見渡した感じで、ちょっと「うまいこと使われてないんじゃないかな」といった気持ちになり、公園を、子どもや子育て世代の人、それからご年配の方々が、きちんと面と向かって交流をして、理解を合って使えば、豊かなまちづくりの原点になるのではないかと思っていたところで、私がちょうど小学校のPTAの成人委員長を2年させていただいたのですが、その時にやったイベントで須藤先生と知り合い、そこから学生さんたちと一緒に公園研究を通して、色々やっていたら市役所の方、区役所の方が入ってきていただいたり、市民センターの方が一緒にやったり、役所は活動を終えたけれども、まだ興味があるからと一緒に活動して下さったり、という方々が

集まっています。

私は学生さんの研究したものに「ここちょっとどうなの?」とか「もっとこうだったらいいんじゃない?」「これやってほしいな」とか、おしゃべりに、楽しく行って、この活動もいろいろ掘り返すと、目的があったりはするのですが、これはまた後の話にちょっと置いておいて、先ほど言ったいろんな活動と、今自分にご縁があったりしながらやっている活動を見渡したところで、私の大事にしているものは何かと。あそこに書き忘れたのですが、多世代や多文化の交流をすることによって理解を促進し、それをまちづくりに生かしたいというのが一つ。それからもう一つが自分ごとにするという。何でも「これが足りない」「これがない」「これがつまらない」とグチグチ言うだけではなく、全部自分が動いてしまえば良いのではないかと私は思っていて、言うだけだったら言っぱなしで、誰に文句を言いますかということなので、自分がやる力がなければ選挙権があれば、選挙で声を出すと、何かしらして自分が動く、主体的にまちづくりを考えて動ける、市民力の向上をすれば良いのではないかとというのが、私の中で、ずっと大事にしてきたものかなと思います。

今まで、三上さん、区長、市長の話も全部聞いていて、もちろん被っているところもたくさんあり、戸畑区はとてもコンパクトで動きやすいまちである、それから教育施設がとても充実している、これは子育て世帯が住むときにとても重視することです。それから私が今浴衣を着ているように、祭りの効果によって、多世代が小さい時から交流して、顔見知りである、まち中がちょっと家族のようなつながりを持っているまち。そして今マンションが中心の方にずっと建って、新しい方々がどんどん入っています。それが、文化の継承にちょっと懸念になるみたいなこともあるのですが、先ほど言ったように多世代が流入してくるということは、このまちを気に入って入ってきてくださっているということです。私が子どもの時に「何もないやん」って思っていたような人たちに、新しい人たちの視点で、新しいものをそこに加えていただけるのではないかと思っています。

それで、今の話のプラス、先ほど言った市民力を持った、主体性を持った関わりをして、今このなんとかトークにずっと拳がってきているような面白いことや、ここにしかないようなユニークなお店、スタバとかドトールとか、そういうのは他に行けばいいわけで、戸畑に行こうが八幡に行こうがいろいろありますので、戸畑にしかないようなところを、この新しい視点も加えながら、そして地元の良さを知っている子たちがそれも伝えながら、まちづくりをしていけば、「観光がどう」とか「どこか特徴をすごく」というよりは、教育と文化をしっかりと育てたまちになれば私はいいのかなと思っています。次に順番が回ってきた時に、じゃあ皆さんどうしたらいいと思いますか、という話を投げかけたいと思っています。

進行（重岡）：

ありがとうございます。皆さんには背景もお聞かせいただきました。もう一順、パネラーの方々に短めにお話を伺っていきたいので、三上さんからお願いします。

三上氏：

リハビリ中に、先生が三上さんはどこからですかって聞かれたので戸畑ですと言ったら「戸畑は住みたいけれども手が出ないんですよ」と言われるほど、良質な住環境です。素晴らしい自然環境の夜宮公園一帯を、質の高い教育が受けられる学園都市にしたいと思います。

皆さんあまり価値をご存じないのではないかとと思われるほど、北九州以外からも色んなとこ

ろから通って来られる明治学園、それから九州工業大学、これは本当に他区にはない、戸畑がもっともっと自慢しなければならない学校だと思います。

その中に、戸畑高校がありひびき高校があり、そして歴史を感じさせる西日本工業クラブがあり、安川邸がある、ゆったりとした空間の中で子育てをして、その子の将来、10年先を見据えた教育環境にするために、点と点を線で結び、道路なども考えて一つのゾーンにしていく、「学園都市戸畑」これがぜひ実現するように願っております。市長よろしく願いいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございます。ダイレクトなリクエストがありました。次は小金丸さんお願いできますか。

小金丸氏：

このミライ・トークを始めるにあたり、先週、ファシリテーターとパネラーの顔合わせということで、戸畑区役所で打ち合わせをさせていただいたのですが、その際に、このひびき高校の学生さんが作られたパンフレット、戸畑の魅力がいっぱい詰まったパンフレットを見させていただきました。後半は、ほとんどその話題で終わってしまったのですが、こういったものを作る力が学生さんにはある。もちろん先生のご指導もあってだと思いますが、あります。

こういうものができたら、私の会社も必要なくなってくるのです。ということで全然面白くないでしょうけれども実際にそうなんです。そうなる私どもの会社が存続する意義って何なのかと考えた時に、私どもは中高生の職場体験であったり、大学生のインターンシップや、大学生向けの講義などを積極的に行わせていただいております。また、市内の幼稚園や保育園には、この紙をこのサイズにするために周りの紙を断裁してそれを処分するだけだったのですが、その紙を幼稚園とか保育園に提供して、それを工作とかに使っていただくような活動を積極的にさせていただいております。私どもの会社が存在するというのは、地域とのつながりであったり、学校とのつながり。こういった印刷物も、皆さんがパソコンとか携帯でネット印刷に出せばものすごく安く上がるのですが、私どもはやっぱりそこを差別化を図りたいということで、地域に貢献したいということを常に思っております。

そして今日このミライ・トークに参加されている中高生の皆様、大学生の皆様が、10年後に、10年後と言ってももうあつという間ですし、もしかしたら戸畑にもういらっしやらないかもしれない。就職で他県に行かれているかもしれませんし、他県からこの大学に来て勉強されている方もいると思いますが、この過ごした時間を皆さんに誇りに思っていたきたい。この戸畑の環境の中で育って、過ごした時間というのを大切にしておいてまた世界に、と言いますか私はもう常に宇宙と言いますが、戸畑で過ごした時間を誇りに持って宇宙に飛び出していただきたい。私は「宇宙=世界」だと思っておりますけども、そういった気持ちを持って、そういった方が増えていけば、戸畑という一番大事ですけども小さなコミュニティだけでなく、もっと大きなコミュニティ、それが行き着く先は素晴らしい日本に、なっていくのではないかと思います。

私どもはそういった気持ちで会社を運営していくことで、地域に雇用を生み、市内の99%が中小企業、従業員数の8割が中小企業ですが、皆さんが聞くと、目につくところは大企業のお名前ばかりかもしれませんが、中小企業もこのコロナ禍で3年間必死に歯を食いしばりながら生き抜いてきております。どうかこういった気持ちを持って、これからも戸畑の皆さんと一緒にまちを発展させていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございます。宇宙にまで夢が広がった気がしました。お隣の須藤先生お願いいたします。

須藤氏：

本当に素晴らしいパネラーの皆さんばかりで、本当に、学生さんとか大事にされているまちなのだということを感じています。是非、自分の好きなことを突き詰めて、戸畑で学んで、世界に羽ばたいてほしいなと思います。いろんな面白いアイデアを高校生とかがお持ちだと思うので、私はここで切り上げて、その時間に使ってもらえればと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。今LiveQには、たくさん楽しい意見が挙がってきているので、後ほど紹介いたします。お隣の三浦さんお願いします。

三浦氏：

先ほどたくさん喋りましたのであっさりと。私が描いている10年の戸畑の姿は先ほど申し上げたのですが、ここに今おっしゃっている意見が出ているのですが、こういう方たちは多分主体性を持って、面白いことをやりたいなと思って、自分たちのやりたいと思っていることが書かれています。やっていることや、やりたいこと。これを「実現する」「しやすくする」のが大事なのではないかと私は思っています。そういったことがコンパクトなまちでうまくつながっていけること。私自身は公園環境を研究している中で、大学や区役所、その他の方々いろいろなコネクションがあるので、「こういうことはどこでわかりますかね」「こういう資料どうしたらいいですかね」と一言言えば、「私こういう人知ってるよ」「ここにこういうのがあると思うよ」というのがスムーズにわかるのですが、一般の方が「何かここをこうした方がいい」とか「こうしてみたい」とか「ここをもうちょっとこういう風にしたい」「したらいいと思うんだよ」と思って実現する時に、どうしたらいいのかわからない「クエスチョン」になると思う。そこをどうしたらいいのかを皆さんでこの後話していけたら、「そうだよね」「こうだったらいいよね」というだけで終わらずに、次につながる素敵なパネルディスカッションにできると思います。是非、恥ずかしがらずに、私も詰まりながら喋っているように、どんな発言でも結構だと思いますので、声を挙げて、声を聞かせていただきたいと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。そうですね。実現するにはどうするか、どうしたいか、というのをこれから皆さんとお話ししていきたいのですが、LiveQに上がっている意見は、今、私たちだけが見えているので、皆さんからどんな意見が挙がっているのかというのを少しご紹介します。

北九州市立高等学校さんから「超ジンジャーグルメフェス・戸畑サンドイッチ開発・戸畑をロケットのまちに、などがあります。こういったことを、高校生を中心に進めていきたいと考えています。」という声があります。さらに「駄菓子屋さんの2階で子どもたちと一緒に、勉強したり遊んだりする活動」を既にしていらっしゃるそうです。「放課後デイサービスの子どもたちとも一緒に料理をしたり、外で遊んだり様々な経験をしてもらいたいなと考えています。」という

ご意見がありました。「市の高校生に向けて、制服や教科書の販売、また戸畑区内の飲食店や雑貨特産品などを主に販売するオンラインストアを開設したい。」と考えておられる高校生がいらっしゃるみたいです。また「規格外野菜を使った野菜石鹸作り、これを高校生と企業と協力して進めていきたいと考えています。」という声があります。小金丸さんこの辺いかがでしょうか。

小金丸氏：

私が先ほどお伝えさせていただいたことと非常にリンクしておりまして、やはりつながりだなと思います。なかなか、こういったことを聞く機会が企業人としては少ない。この九州工業大学は、徒歩5～10分圏内なのですが、入ったことは何回かしかない。このようなクロストークというか、学生の皆さんからのご意見をいただいて、非常に嬉しく思いますし、区内事業所としてつながっていきなと思います。

進行（重岡）：

突然すみませんでした。ご意見と関係のあるところには少し振っていきなと思います。

LiveQにはいろいろ挙がっているのですが、会場内の皆さんで、ご意見とか質問のある方がいらっしゃったら、思い切って挙手をお願いできますでしょうか。学生さんたちいかがですか。怖くないですよ。大丈夫ですよ。さっき大黒天を正解した高校生振ってみても良いでしょうか。今までのお話を聞いての感想でも良いですし、ご自身がいつも考えていることでも良いのでお願いいたします。

会場：

はい。戸畑は緑が多くて良いまちなだと思いました。

進行（重岡）：

ありがとうございます。緑が多いまちで良いと高校生から聞くと嬉しいですね。先ほどはクイズありがとうございます。大正解でしたね。他にもどなたいらっしゃいますか。ブルーシャツの男性お願いします。

会場：

戸畑活性化協議会の会長をしております日向と申します。

戸畑は近代工業発祥の地が多いです。日本最初の自動車も戸畑鋳物から日立金属になって日産になっている。ゴーンさんがはっきりと戸畑鋳物の鮎川義介の名前まで出している。窓などに使われているガラスが最初に工業的にできたのが旭硝子の北九州工場。そして、鉄ができたのが日鉄さん。八幡から今は戸畑が中心になって、高炉もあって作っている。そして、その鉄に関するいろんな中小企業も多い。人間食べていくためには働かなければいけない。特に北九州は、四大工業地帯と呼ばれていた。こういうミライ・トークになると公園とかそういうものが重視されるが、やはり企業にもしっかり目を向けていくべき。そして企業のためにもみんなで参加していくべきではないか。

今の企業は昔のように「臭い」「汚い」「騒々しい」ところとは違って、TOTOさんにしても、安川さんにしても、そして日鉄さんにしても、公園のような工場にしていこうという動きがあります。日鉄さんは素晴らしい絵画や美術品もお持ちで、そういったものを一般公開してい

るけれど皆さん知らない。戸畑の中小企業の中にも、濱田重工さんをはじめ、たくさんいろんな会社があります。そういうところにも皆さん目を向けたい。うちの会社も洞海湾に向けて展望台を作りました。こういったところもぜひ見ていただきたい。

そして、市長にお願いしたいのは、早く用途地域などを見直してほしい。要するに、鉄道から海側は全部工業地帯、ほとんどが港湾地区になっていて、商業とか住宅ができない。これは非常にもったいない。特に洞海湾を望む海側にマンションができれば若松側が見えるし、若松の方からは戸畑が見える、そして橋がかかっていて素晴らしいロケーションになる。住宅地として適地になるのではないか。

戸畑は一番海に近い。是非、釣りなどができる公園にしていいのではないか。今、企業も港湾地区はほとんど一般車立ち入り禁止ですが、仕事をしてない時は皆さん方に入ってきていただいてもいい。その代わりゴミは是非持ち帰ってもらいたい。不法に入ってくる人たちが使っている。そんな状況はやっぱり変えてもらいたい。そのように思います。ですから、戸畑は商業・工業も一緒になって、文教地区を作っていただきたいと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございました。会場内に暖かい拍手が湧くのは良いですね。どなたか他にありませんか。戸畑区の将来像についての皆さんのご意見などいただいております。

会場：

こんにちは私は中原から来ましたタケウチといいます。市長と同じタケウチなのですが字が違います。私は、今日このミライ・トークを聞きに来て、若い人と一緒にトークできるということで、勇気と元気をいただく。そういった意味で感謝しています。パネラーの4名の方、市長、区長のお話を聞いて、元気をいただきました。

ただ、最初に、役所から、これに入る前に、過去の戸畑区、特にこの九州工業大学。

私は、生まれも育ちも中原です。仕事の関係で25年東京にいましたが、戻ってきてやはり中原がいいなと思っています。東京に25年いても、地域での仕事場はありませんでした。ただボランティアをやると言っても限界がありました。ここに戻ってきて中原の市民センターの職員を9年やり、その後いかに地域に貢献するかということで、今いろいろなこと、例えばパネラーの方の須藤さん三浦さんと一緒に、公園遊び場研究などもやって、非常に良かった。また今からやろうという気持ちになっているが、何せ私はもう80を超えていますので、人生100年時代と言っても、あと15年しかありません。皆さんと一緒に何かやりたいなという気持ちがあって、元気で頑張っていきたいという気持ちは持ち続けているが、何しろ体があちこち痛くなり、自分の思うように動けない。人生100年と言いながらやはり厳しいものがあると感じています。ボランティア活動で若い人と一緒になってやっていくことで、私は元気を貰いたい、勇気を貰いたいなと思っています。よろしくお願いします。

進行（重岡）：

ありがとうございました。今、若い方の声を是非ということで、真ん中辺りの若い方に聞きたいのですが、先ほど「高校生がたまる場所がない」という声がLiveQに挙がっていたのですが、皆さん自身、どんなたまる場所、どうしたらいいと思うか、というのを若い方にお聞きしたいのですがいかがですか。手が上がった方にマイクをお願いします。

会場：

こんにちは戸畑工業高校から来ました、キクムラと申します。

自分は高校3年間部活動をしていて、いつも部活が終わった後すごくお腹が空いていて、コロナの時期があって、みんなでご飯を食べに行くというのは少なかったのですが、コロナもだいぶ収まってお腹を空かせている高校生はたくさんいると思うので、ご飯を一緒に食べられるようなところを作っていただいて、部活動のみんなと、今までやってきたきついとこととか、これから頑張っていきたいこととかを、会話しながら、ご飯を食べられるようなところがあったらいいなと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。他にも何かありませんか。後ろの方。

会場：

先ほど、卒業生と言いました。働いているのは、折尾のクリスチャンの学校と言うとわかると思いますが、折尾愛真短期大学で、教授をやっておりますマツダと申します。

一言、先ほどの食べるところの話について。九工大にもレストランがありますよね。これ活用をできないでしょうか。

須藤氏：

入試の時とかは入れないですが、九工大のカフェも学食も、普段は地域の方も入れるようになっていますので、ぜひ活用していただきたいです。

私も学生の頃から同じように感じていました。大学生がいっぱいいるので量が多くて、思いっきり食べられる定食屋さんなどが大学の周りにいっぱいあるかなと思って入学したけど、やっぱり高齢化で店を閉めたりしていて、OBの方と私の世代は味を共有しているかもしれないですけど、今の学生さんと「あの定食屋の唐揚げうまいよね」という話はできなくなってきていて、それはちょっと悲しいなと思っています。そういう学生たちが、元気にお腹いっぱいになれるようなご飯屋さんとかで、長居してもお母さんがお茶を出してくれるような、そういう温かい場所がもっとたくさんできたらいいと思っています。大学の中は学生がいっぱいいますし、食べに来てもらって大丈夫ですので、是非来てください。自転車でも入れます。

進行（重岡）：

ありがとうございます。女生徒の皆さんどうですか。若者がたまる場所にするには、何があったらとか、どうしたらいいか、みたいな意見。マイクを持って近くの方に、ご意見を聞いてもいいですか。

会場：

さっき言ったように、食べ物のお店とかは多くあった方がいいかなって思います。

進行（重岡）：

ちなみに LiveQ には「カラオケ店があったらいいな」という声が挙がっていましたがどう

ですか。

会場：

そうですね。勉強と部活を両立する生徒も多いので、そういった生徒たちが安らげる、休める場所とか。飲食店に限らず、そういった休める、ちょっとしたカフェとかもあったら良いかと思います。

進行（重岡）：

カフェが出ました。お洒落ですね、いい感じですね。なんかあるよとかいうのがあったらパネリストの方々から。

須藤氏：

そうですね。それぞれ高校からの距離はあると思いますが、九工大のこの建物は高校生の方にも使ってもらえるように仕組みが整っています。イベントがあったりとか、大学生がいっぱいいる時もあるのですが、夏休みの期間とか、勉強したりとか電源も取れますので、是非一つ若者の交流の場として。若者に限らず、地域の方にも活用していただけたらいいし、ここを使ってください。綺麗ですよ。こういう環境は結構珍しくないですか、大学の図書館とかもあると思います。

私も常々、公園づくりとか、小さい小学校ぐらいのお子さんのことはすごく考えられていると思うのですが、中学校とか高校ぐらいになると、自分の居場所を探すのに、友達と集まるのに、実はお金が必要だったりして、それで本当にいいのかなとずっと思っていて、そうじゃなくていいと思うのです。

皆さん、本当はこういうところがほしいとか、高校生・大学生になるかもしれないですけども、未来の後輩たちのために、こんなとこがあったらもっと良いというものを、ここに書いてもらってもいいし、今日難しかったら、そういった発信を続けていってくれたら良いと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。ちょっとこの辺にも聞いてみましょう。学校からこう素通りで帰ってしまうという感じはありますか。

会場：

結構あります。

進行（重岡）：

将来的にこういうのがあったら良いなと思うことはありますか。

会場：

やはり試験期間とか、勉強する環境が必要だと思うので、勉強するために長居しても大丈夫なような、カフェ等があったらいいなと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。何かありますか。

会場：

学生だけでなく、地域の人とも関われる、そんな場所があったら良いなと思います。

進行（重岡）：

地域の人とも関われる場所があったらということですが、三浦さんいかがでしょうか。

三浦氏：

私は実はずっとやってきた中で、地域の交流地点を自分の家に作ってしまうのが、最終目的だったのですが、今、市民センターに関わらせてもらっているのも、そういうところもありかなと思います。センターも8時ぐらいまでぐらいまでは管理の方もいらっしゃいます。

うちの息子は一番上が高校生なのですが、帰る時間も結構遅いです。そこからどこかに寄るといのもありだし、じゃあご飯どうするという話、うちはおにぎりを1個持っていきますが、絶対お腹すいたって帰ってきます。そういう時に友達とちょっとだけ寄って、その地域の人と今日こうだったというのを、先生にも話せない、親にも話せない、近い友達にもちょっと話せないようなことを、違う大人と関わる環境とかそういうのが、あっても良いかと思います。

愛知県では、そのような交流施設、市民センターのような交流施設の中にカフェがあって、講座なんかをやりたい人向けの貸教室があって、という古い学校を活用したような施設もありました。

これからの少子化が進んで空きがあったり、もしくは今私の子どもの頃よりはだんだん荒んでいっている商店街の空き店舗とかが、もっとも利権がどうか地権がどうかいろいろあるのですが、そこを活用しながら、素早く声を生かしながら、活用していけるような仕組みがあったら、良いのかなと思います。そういうところがみんなのたまり場になっていけば良い、それで、できた時に使うこと。あっても使わないと廃れていく。せっかくできたのにもうなくなったというところがいくらでもあります。近くの食堂でも、大皿で食べられた中華料理屋さんとかもありましたがなくなってしまった。やっぱり皆が使うこと、さっきの九工大の中のレストランはおしゃれで私もしょっちゅう使うので、あそこもいい。学校も使ってほしいけれど、商店街も使ってほしいです。もし何かができる時は、やはり活用するというのが大事かなと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。ちょっとここでちょっと区長から。

武田区長：

オブザーバーの立場で申し訳ないですが、今たまり場の話が出ましたので一つだけ。若手職員が戸畑区役所をちょっと紹介させていただきました。戸畑祇園を見るために作った栈敷席ご存知ですか。実はあれは、戸畑祇園の時にしか入れないようにしていたのですが、それを今年から解放しております。ぜひ高校生の皆さんは、帰りがけに戸畑区役所の栈敷席に寄ってもらって、喋っても歌っても何してもいいです、そうやって戸畑区でちょっと楽しい時間を過ごして、駅前にもちょっと何かあるといいですね。皆さんが電車に乗る前に何かあるといいと思います。そういうのを一生懸命考えていきたいと思っています。

それとすみません、もう一つ。最初に問題提起させていただいた件、須藤先生からもありましたように、九工大の駅から九工大を通過して夜宮公園に行く途中に、非常にいろんなものがあるこのストリートとか、あるいはいろんな施設を点ではなくて面としてつなぐ、20年、30年後の戸畑区のまちづくりのために、どのようにしていったらいいのか、会場の皆さん、パネラーの皆さんに、アイデアを一つでもいいのでお聞かせいただくとありがたいと思います。

進行（重岡）：

はい。では、まずパネリストの方に聞いてみましょうか。

須藤氏：

私も紹介したように、緑の関係を中心に面的に広がっている。大学の敷地と、明治学園の敷地と、松の並木を挟んで夜宮公園と、管理の主体も分かれていますし、中を通過して行けない感じにもなっているので、時間はかかると思いますけれども、違うそれぞれが「こうしたいな」とやってことを、もうちょっと一緒に集まって10年後「このような一体の森にしよう」とか「ここを歩いてみんなが回れるようにしよう」みたいなことを、それぞれの主体が、共同で一緒に話をしていったら良いと思っています。緑の都市の環境はとても大事なので、このように違う学校とか、違う人たちが、緑のまちを作っているというのは、これから先、世界的にとってもアピールになっていくことだと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。会場の方にもお聞きしたいと思いますが、後でまた上の方にもマイクを持って行きますがまずこちらから。

会場：

そのためには、まず学園通りから大型車を排除するということが必要。あそこは普通車しか通れないようにする。あそこをトレーラーやダンプが走ったらとても渡れません。

それと、戸畑は街路樹が綺麗なので、通りに名称をつけて街路樹でその道を案内するとか、そういうことを是非やってほしい。これは活性化協議会で何年も言い続けていることです。

進行（重岡）：

ありがとうございます。区長先ほどの投げかけをもう一度言っていただいてもいいですか。上の方にマイクを持っていきます。

武田区長：

戸畑にある施設群を点ではなくて、面としてつないでいくということについて、お考えやアイデアがもしあればお聞かせください。

会場：

北九州市立高校のアキヨシといいます。本日はよろしくお願いたします。

そこにも生徒9名を連れて来ているのですけれども、私たち高校は、自分たちの高校だけで発展してもダメだということで、昨年度12月に、戸畑の棧敷席が何にも使われてないので、せ

ひ何かしましょうということで、今日も一緒に集まっているひびき高校さん、戸畑高校さん、明治学園さん、戸畑工業さんなどなど戸畑の高校5校が集まって、高校生でイベントをしました。戸畑の機敷席に、高校生の力でかなり小学生・ちびっ子が来てくれましたので、そういうイベントをやっていきたいと考えています。

本当に高校生が考えている事というのは、本当に「それできんやろう」っていうこともたくさんあるのですが、高校生の力でこの戸畑が、本当に活性化できるような取り組みを、今いろいろ考えているので、地域の方とか大人の方に、力を借りたいなと思って今日来ております。よろしくお願ひいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございます。急にマイクをお渡ししてすみません。ちょっともうちょっと上にも行ってまいりましょうか。大学生がにこやかに迎えてくれている。今の区長のお話から良いですか。

会場：

上から失礼いたします。前に座っている、須藤先生の研究室に所属している大学院1年生のものです。戸畑区を良くしていく上で、学生とか、大人とか、高齢者の方とかのいろんな意見があって、学生の目線から言いたいのは、学生がみんな口を揃えていうのは「結局、戸畑区って何もないよね」っていうこと。先ほど三浦さんも、都会とかに出て良さに気づいたっていう話もあったのですが、学生が求めているのは友達とワイワイガヤガヤすることだと思うのです。ご飯とか食べに行きたいというのもそうなのですが、たまり場がないというのは、コンビニとかでご飯を買ったりしても、それをどこで一緒に食べたりするのかということで、公園とかに行くと食べるということもあると思いますが、ご飯屋さんに行ってみんなで食べるのも、コンビニでご飯買って、公園でみんな食べるも全部楽しくて、結局は友達との交流の場と言うのがたくさん増えればいいかなと思います。

僕も、小学校、中学校、高校と上がってきて、結局、思い出に残っているのは、一人で何かした事よりも、やはり、友達と何かを一生懸命頑張って成し遂げてきたということが、すごく良い思い出に残っているし、それが戸畑区の中でもできて、大人になって都会に出て、やっぱり戸畑区で過ごせて良かったなと思って、最後また戸畑区に戻ってきて暮らすという、そんな将来像が良いなと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございます。登ってみてわかったのですがここ意外と高いですね。

点と点をつないでいく、面としてつないでいくには、やはり人と人との繋がりとか、それは学生さんも、最初に三上さんがお話ししてくださったご高齢の方も問わず一緒のことかと思ったのですが、三上さんお話を聞かれていていかがですか。

三上氏：

私も子どもを育てましたので、皆さん方がおっしゃることが本当に一つ一つ領けることばかりでございました。本当に、点と点を結び、それが一つのものになる、それを皆さんの力で、若い方の力で、成し遂げていただければありがたいなと思っています。

私達はもう応援団の方に回って、一生懸命応援させていただきますので、皆様よろしく願いいたします。

進行（重岡）：

ありがとうございます。ちょっと場所を移ってこちらの方。今日はどちらからお越しになりましたか。

会場：

ひびき高校です。

進行（重岡）：

たくさんLiveQにも、書き込みしてくださっていますか。ありがとうございます。

書き込んだ意見でもいいですし、今さっきの区長の問いかけに対する答えでもいいのですが、いかがですか。

会場：

書き込んだ内容についてお話しします。地域の交流を作ろうというのと、世代間の交流を作ろうという課題があると思うのですが、それに対して高校生も動けると感じていて、高校の活動で交流を増やすために、その拠点作りとかまではいかないのですが、活動を計画していて、その2つの課題に加えて、商店街の活性化という課題も出たと思いますが、それらを解決するために商店街の空き店舗を利用して、地域の人が交流できる場を高校生で作ろうということをしています。そういう活動が、他のたくさんの高校にも広まれば、課題の解決につながると思いますし、それを大人の方に応援してほしいと思います。

あと宣伝になってしまうのですが、その活動の一環として8月3日の木曜日に、ひびき高校の生徒がウェルとばたで映画の自主上映会をします。映画を1本と、北九州フィルム・コミッションさんに来ていただいてお話を聞きます。そこが交流の場になってくれれば良いなと思うし、映画の内容もとても勉強になるので、お時間ある方是非来てください。

進行（重岡）：

ありがとうございます。ちなみに映画はどんな映画ですか。

会場：

起立性調節障害という病気について描いた「今日も明日も負け犬。」という映画で、高校生が監督を務めた映画になっています。

進行（重岡）：

ありがとうございました。今のお聞きになって、小金丸さんいかがですか。高校生がそういったことをやっているというのをご存知でいらっしゃいましたか。

小金丸氏：

先ほども申しましたように、ひびき高校さんにおかれましては、この「想～想いを届けたい」

という冊子でまず感動をいたしました。そしてまた映像で作り上げるということも、別の角度からまた一步踏み出したことじゃないかなと思います。本当に素晴らしい活動だなと思います。地域の企業として応援させていただきます。

進行（重岡）：

活動が高校生だけにとどまることなく、いろんな世代に広がっていくと良いですね。ちょっと頑張って上の方の人にもマイクをお渡ししていいですか。

会場：

こんにちは西南学院大学に通っています、マツモトです。

さっき区長さんのおっしゃっていた、点と点を面でつなぐということについて、まちおこしとしてという面と、地域のつながりという面があると思ひまして、まちおこしという面では、若戸大橋周辺やこの夜宮公園一帯というのがありますが、地域づくりという面で考えると、今ある、山笠の縦のつながりというのを、もうちょっと横方向に広げていったりだとか、あと商店街の中の活性化ということで、商店街は、お店の人もいて、人もある程度通っていて、おそらく安全な場所だと思うので、もうちょっと子どもが、商店街とかで遊んだりできたら、商店街の活性化などにもつながるのではないかなと思っています。

進行（重岡）：

お隣の学生さんいかがですか。学生さんじゃない。

会場：

戸畑工業高校の教員を務めております、山田と申します。

序盤の話の中で、戸畑区を通り過ぎているだけではないかというところで、私も今年の4月から戸畑区に通勤するようになりまして、実際、通勤するだけになっている部分があって、ハッとさせられました。

実際話を聞いていると、すごく良いところもあるなと感じて、やっぱり私たちも含めて、みんながそういう良いところがあるというのを、知る機会が必要になってくると思います。例えば、高校と地域の方と一緒にボランティア活動をして、その中で話をする中で、こういう良い場所があるよとか、人とのつながりとか、できるような行事などをやっていければ、より若い世代にも戸畑区の良いところが伝わるのではないかなと感じました。

進行（重岡）：

ありがとうございます。そろそろパネリストの方々に今まで皆さんのお話を聞いていただいて、20年～30年後をイメージして「〇〇のまち戸畑」とすると、〇〇には何が当てはまるかというのを、パネリストの方々に答えたいのですが、三上様からいいですか。お願いします。

三上氏：

話の中でも言いましたけれども「学園都市戸畑」を願っております。

小金丸氏：

「〇〇のまち」ということで、本当は「小金丸のまち」ということで締めたいのですけれども、そうではなくて「未来のまち」と命名させていただきたいなと思います。

須藤氏：

「未来のまち」いいですね。私は、今日皆さんの話を聞いて、人がつながっていくこと、知らないことがたくさんあった。正直、戸畑のことを知っているつもりになっていたので「人とつながるまち」みたいな、皆さんの思い等を実現できる、そういうネットワークができればいいなと思いました。

三浦氏：

一言で言うのは難しいなと思いますが、「やりたいことの実現できる、コンパクトな、住みよいまち」いっぱい入れてしまいました、これがいいと思います。

進行（重岡）：

ありがとうございました。本当にたくさん学生さんから「こういうこともやっている」という声を聞いて、今、三浦さんがおっしゃったようなまちだなと思いました。それではたくさんのご意見いただきましたが、最後に武内市長より、今日振り返っていただいて、一言いただいてよろしいですか。お願いします。

武内市長：

皆さんありがとうございました。今日は参加いただきまして、ご意見もたくさんいただきました。この LiveQ の方にも、たくさん興味深いご意見をいただいて、本当にありがとうございます。

改めて、この戸畑、本当にいろんな力持っていて、これがもったいないという思いもしました。戸畑区、今日伺って、武器となるものが、一つは本当に住みやすいということ、リビングルームみたいなまちだなと思いました。そして二つ目は人のつながりがある。この強さ。そして三つ目が若い人が多いということ。冒頭にありましたが10代、20代の方がこれだけ行き交うまちという、この強みを生かさないといけないと改めて思いました。

そして、今日キーワードとして最後に出ました、点と点はすごくいいものがあるのだけれど、それをつなげるにはどうしたらいいのか。分断しているものを、どうやってそれを通せばいいのか、そこが大きな課題だと思います。今日、たまり場を作ろうという話もたくさんありましたし、交流の機会も作ろう、あるいは海をもっと使ったら良いのではないか、という話もありました。そのような観点でこれから、この北九州市自体が、ものすごく住みやすいまちですけれども、その中でも戸畑区、この生活の質の高さを自慢にする、そういうまちにするのも、一つ大事な切り口かと思いました。

緑があって歴史があって、そしてここに人のつながりが、もう一度たまり場をしっかりと作っていければ、戸畑区が、さらにさらに他のまちから憧れられるような、そういうまちになっていくのではないかと、そのためにはしっかり点と点を結んでやっていきたいと思っております。

今日は本当にいろんなご意見、老若男女、皆さんにご意見をいただきありがとうございました。これから戸畑区の未来、そして北九州市の未来へ向かって、さらに議論を進めていきたいと

思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

進行（重岡）：

ありがとうございました。以上もちまして「ミライ・トーク in 戸畑区」のプログラム終了となります。今日、ご意見言いたかったけどなかなか言えなかったという方は、先ほどの LiveQ に書き込んでいただけますか、最初にお渡ししましたアンケートに記入していただけたら、ご意見の方、反映していきたいと思っております。出口に回収ボックスを設けておりますので、記入していただいたものはアンケート回収ボックスにお入れください。このミライ・トークを皮切りに、北九州市の新ビジョンの策定過程は、市のホームページに専用のページを設けて、随時お知らせしてまいります。このミライ・トークの報告もアップされますのでよろしければ是非ご覧ください。検索のキーワードは「未来の北九州」です。本日は本当に多くの皆様に足を運んでいただきました。最後まで本当にありがとうございました。